

衆國政治

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番	第	號
社會部		
政治部		
學		
目		
冊 / 內第 / 冊		
分類 番	第	號

號

T1A1
23
U 89

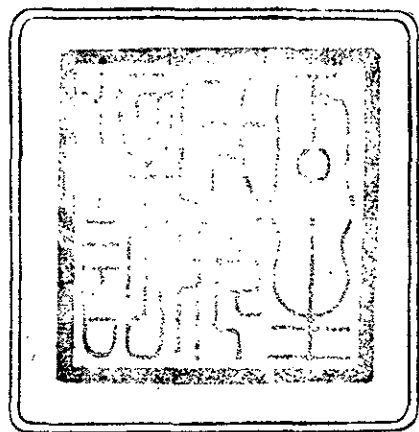
圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 3 1 3 3 a

福岡教育大学蔵書

合衆國政治學



政治小學

地道敏樹者。發育之氣。無毫忽間斷也。人道敏政者。生養之事。無須臾止息也。夫有土地。而樹藝滋焉。品物育焉。有人民。而政事立焉。利用生焉。不發則無所育。不育則不成。不生則無所養。不養則不遂。故曰。天地設位。聖人成能。人謀鬼謀。百姓與能。天地設位。而人行於其中。聖人成能。而裁制

之功數焉。參與生。天地之化也。成與遂。人事之功也。人謀者。謂於顯也。鬼謀者。謂於幽也。顯之著。耳目之所至也。幽之微。意想之所不及也。耳目之所至。人可得而測也。所以百姓與能。而夫婦之愚。不肖。可知且行也。意想之所不及。則不可得而測也。所以雖聖人。有所不知。且能也。是故。設神道以立教。聖人豈私設之哉。固察諸鬼神之

變化。原諸天理之自然也。且非獨政教有此幾微。不可測之理也。若道家謂玄妙。兵家謂玄機。乃至旭之書。僚之丸。苟有造詣者。無不有其妙也。是故。說辭歌詠。非徒銜奇巧也。所以達情致也。文物典章。非徒示誇華也。所以詳品節也。權衡度量。非徒相計較也。所以定民志也。音聲律呂。非徒悅衆聽也。所以驗風氣也。故以古非今。以今

非古。以此非彼。以彼非此。偕未為得也。古者今之所宜鑒。今者古之所宜徵。教者政之所由出。政者教之所緣成也。設夫父為子隱。子為父隱。事君竭忠。有犯無隱。服勤抵死。若斯者。教之所及。而政之所不及也。刑辟征伐。若斯者。政之所及。而教之所不及也。政教之所以一本而相待者。可以推知也。今者知彼知己。齋主人譚美理堅某。

氏之政治小學。以便於初學。其謂萬國之政體有四。曰君主。曰貴族。曰民庶。曰共和。或以重倫。或以崇賢。然皆尊卑上下者。天地之自然。不可易也。公平治安者。人世之基本。不可替也。故尊卑上下者。倫理之通義。而倫理之至者。莫至于君民之不易。而存之於此。公平治安者。富有之功業。而富有之盛者。莫盛于賢能之得任。而徵之於

三

學目次

المادة ١٠ - **الهيئة العامة للغذاء والدواء**

條理

人々者ハ互の交際欠くを政

論

通義と自由乃意義を論ず

法令の意味を論ず

政治の体裁は君主貴族民衆共和の別

事

合衆國各州の政治上篇

第五章 國律の性來國律の主意及以之を定む

第六章 選舉士乃身分の事

第七章 選舉の事

第八章 政權の分け方

第九章 各州立法局並に其制度の事

第十章 立法局議會及び其役割の事

第十一章 民法取定え方

第十二章 施政局奉行副奉行之事

合衆國各州の政治下篇

第十三章 州廳施政局下役の事

第十四章 郡及び郡廳諸役人の事

第十五章 縣及び縣廳役人の事

第十六章 市府村郷等の組合並に其政府を論

○初篇卷の三

第十七章 裁判局並に下等裁判所の事

第十八章 立合役の吟味家産取揚家産封附越

訴及以罪人召捕の事

第十九章 下等裁判所より外の裁判所並に大

立合役少立合役の事

第二十章 正理裁判所遺書裁判所吏罪裁判所

の事

第廿一章 運上割附取集めの事

第廿二章 教育並に學校積金諸學校等の事

第廿三章 堀割並に鉄道の事

第廿四章 為替座並に請負座の事

第廿五章 民兵の事

○第二篇卷の一

合衆全國大政府上篇

第廿六章 革命由來の事

第廿七章 盟約より連合の模様

第廿八章 國律より連合の模様の事

第廿九章 立法院並に下院の事

第三十章 上院の事

第三十一章 年貢運上等を命じ立法院の權

力並に金銀を借りるの權を論じ

第三十二章 商法と整へる權力並に外國人と

の商法を論じ

第三十三章

商法を整へる權力の余義航海各州間の商賣及びインヂヤ人種と商賣の事

第三十四章

歸化人と本國人とならに就ての立法院の權力並に家産破滅金銀鑄造尺度量目及び贖金刑罰に關する權力の事

第三十五章

飛脚座に關する立法院の權力出板の通義官許並に下等の裁判所と論を

第三十六章

海賊及び公法に背ける罪狀に關する立法院の權力並に軍事戰爭追奪強價護國安寧コロニヤ地方其外附屬の權力を論を

第三十七章

立法院權力に限制を事

第三十八章

各州權力の限制を論を

○第二篇卷の二

合衆全國大政府下篇

第三十九章

施政院並に大統領副統領及び其撰舉身分等の事

第四十章

大統領の權力職分並に條約取結全權公使諸官登用免職の事

第四十一章

施政院下吏外國事務會計事務內國事務陸軍事務海軍事務飛脚座事務の諸執事並に司法頭取の事

第四十二章

裁判院並に地方裁判所輪番裁判所最上裁判所の事

第四十三章

叛逆并に其刑罰の事

第四十四章

各州布告士民の獨權出奔脱走新州連合の許容領地上の權力共和

第四十五章

政体の保証と論を改正の箇條國債の使用國律の大權力職掌の誓言宗旨の誓言國律の取定と論を

第四十六章

國律改正の事

○第三篇卷の一

定則法及び常例法

第四十七章

身上の通義、身上の保護、身上の自由、宗旨の自由、言語の自由、上木の自由、並に私有品の通義と論を

第四十八章

家族の事但一夫婦を論る

第四十九章

家族の余義但一父子後見幼児少年師弟從僕の事

第五十章

私有の通義私有と得るの義遺言證書子孫私有と得るの義を論る

第五十一章

諸證文并質物證書の事

第五十二章

無体の遺物通路の通義用水の通義等を論る

第五十三章

貸地の證文一生の借地年限の借地相對の借地無約ろ借地並借

第五十四章

料等の事
約束の總論

第五十五章

賣拂約束の事

第五十六章

偽計賣拂の事並譲渡贈物等の事

第五十七章

品物委託の事

第五十八章

本人及ハ代人の事並仲買賸物等の事

第五十九章

仲間の事

第六十章

借金拂方證文の事

第六十一章

為替手形利分並に高利の事

第六十二章

罪並に咎の事

○第三篇卷の二

萬國公法

第六十三章

公法の由來、自然公法、常例公法、會盟公法の事

第六十四章

萬國交際の制方並に萬國の通義職分、使節公使等の事

第六十五章

攻撃の軍、防禦の軍、戦争の正義、強償、戦争同盟の事

第六十六章

戦争布告並に敵國人民の船上及以私物品、戦争の謀計及び依給違

奪の事

第六十七章

局外中立國の通義職分、禁制品、物港口取圍穿鑿の權利一時止戦和議条約の事

○第三篇卷の三

各州國律の概畧

第一メーン州

第二ニユーハムシャー州

- 第三 ベルモント州
第四 マサチューセツト州
第五 ロードアイランド州
第六 コンネチカツト州
第七 ニューヨーク州
第八 ニューセルシー州
第九 ペンシルバニア州
第十 デラウエル州
第十一 マリランド州
第十二 ビルシニヤ州

- 第十三 北カロリナ州
第十四 南カロリナ州
第十五 ジョルジア州
第十六 フロリダ州
第十七 アラバマ州
第十八 ミッシシッピ州
第十九 ロイシアナ州
第二十 テキサス州
第二十一 アーカンサス州
第二十二 ミッソリー州

- | | |
|------|---------|
| 第二十三 | テネッシー州 |
| 第二十四 | ケンツキー州 |
| 第二十五 | オハヨ州 |
| 第二十六 | インディアナ州 |
| 第二十七 | イリノイス州 |
| 第二十八 | ミチガン州 |
| 第二十九 | ビスコンシン州 |
| 第三十 | ヨワ州 |
| 第三十一 | カリホルニア州 |
| 第三十二 | ミンネソタ州 |

全衆全國の國律

合衆國政治小學初篇卷之一

瓜生三寅 譯述

政治の條理

第一章

人なるものゝ互の交際欠く可くも
政治法度設けざるものと得ざるの論
凡そ人間ハ羣居して相共み親み睦みて互ふ交と
結ふべき生物小いて天然自然人間交際の道備り
たるものなり人間の交際と英語ハ「サイチ」と
いふ人間たる者ハ自ら互ふ協力合夥せねばなら
ぬ訳合の者といふ義なり此同心協力といふ者が

ちて人々の幸福を得るは實以て出来ぬ
理ありて見よ人の交際とは元と是れ造
化の然る一処あること疑ふもあまて人の
五臓の作り方ううて人々互に相頼り相扶くる
やう造りある者ふて他の動物の如く自ら護り
自ら營むやう々自然の体力と云ふ者ハあて
なく己れが五臓と保護營生をも自分一力不
てはたと足らぬ必に他人の扶助に頼らざるは
と得る若く此扶助といふ者に頼らば豈に能
く生活の道を保つことを得んや其上人ハ各分

別と言語といふ天の賜ものなり是とて其日
々其言由る其分別も聞き其知識も益
且其營生の方をも悟り其交際の道と善くする
夫れ附くなり
然し人ハ實に互の扶助に頼るを多し
又各自分の為ハ人々自分より意を用ゆべき
勿論なり是亦天の法令あり若く國內ハ萬人普
通に倉廩有りて諸人互に骨折し成る諸物と貯へ置
き誰みても衣食とも皆に茲に仰くべきを得るや
ふらば人皆を他人に骨折のより依頼して自然

怠惰^{たいだ}游逸^{ゆういつ}の風小流^{せうりゅう}を行くもの多^{おほ}く當今^{たうこん}の如^{ごと}き諸^{しよ}業^{ぎふ}勉勵^{けんれい}の風ハ迎^{むか}へ出来ぬものあり當今^{たうこん}の人間交際^{けんこう}の立て方ハ人々已^{すで}ま小骨折^{せうこせつ}て自分の需用^{じゆんよう}ハ自分^{自分}と圖^{とら}ねハな^なぬや^やな^なもの故^{ゆゑ}其所得利潤^{しやうとくりん}も遙^{はる}に多く意^いを用^{もち}ゆるち^ちも殊^{こと}に大^{おほ}い^いと多^{おほ}く世間一般^{せけんいつぱん}の幸福^{しあふ}も^も盛隆^{せいりゆう}となるる人々^{ひと}の骨折^{こせつ}と以^{もつ}て普^ふく諸人^{しよじん}の利益^{りやく}となるる^{なり}ふ^ふとら^{とら}バ^バと^とふ^ふと^とハ^ハま^まり^りぬ者^{もの}なり此交際^{けんこう}の立^た方^{かた}より^{より}て人^{ひと}小所持^{せうしじ}と保^{たも}つ^つの通義^{たうぎ}と稱^{なづ}ふる事^{こと}も出^でて来^きる^るなり若^もし人々^{ひと}の所得利潤^{しやうとくりん}と

集^あひて盡^{つく}く萬人^{まんじん}の用^{もち}小供^{せうきう}し普通^{ふつう}の倉^{くら}小収^{せう}むる様^{よう}なりハ決^{けつ}して是^{こゝ}ハ我^{われ}の所持^{しじ}是^{こゝ}ハ彼^{かれ}の物^{もの}探^{たん}と^とい^いふ^ふ處^{ところ}も^もの^{もの}も^もなり天下^{てんか}萬人^{まんじん}各^{おの}己^{おの}も小骨折^{せうこせつ}て自分^{自分}の爲^{ため}に營生^{えいせい}を^を終^はへ^へ已^{すで}ま小骨折^{せうこせつ}の所得^{しやうとく}ハ皆^{みな}已^{すで}ま所持^{しじ}と^とて之^{これ}を受用^{じゆよう}する通義^{たうぎ}も^もなり^{なり}誤^{あや}り^り乍^さ去^さ人間世俗^{じんがうじよく}の交際^{けんこう}中^{ちゆう}に^にあり^りの^の人^{ひと}ハ誰^{たれ}も皆^{みな}同様の通義^{たうぎ}を持^もつ^つ故^{ゆゑ}に已^{すで}ま小所用^{せうしよう}を充^みて已^{すで}ま所願^{しよくわん}を果^はさん^{さん}小も他人^{たうじん}の通義^{たうぎ}を損^{そん}する^{する}に至^{いた}らざる^ると以^{もつ}て限^{かぎ}りと^と必^{かならず}他人^{たうじん}の通義^{たうぎ}を破^{やぶ}る^るに自他^{じたい}の通義^{たうぎ}共^{とも}小并^{なら}び行^なは^はれん^んと^と要^{ひつ}す^す故^{ゆゑ}に

公然已き小属と爲物ハ已きに處置し已き小受用
して妨るきやうゆー日常交誼の所行も能く當然
を得るやう小世俗人間ハ交際の定則と云ふ者
がなくしてゐるぬ理なり其交の所行を正ふる
規則と英語ハ「ロウ」といふ普通一般の意味ある
「ハロウ」とハ動作の規則といふも何事か
るに萬種の行爲動作の事小用ゆへ身語をせよと
精細小之を味ハ正理と進み邪惡と禁し人故日
常動作を正ふる規則の事なり即ち法令とも訳
るべき語なり前ふもいへる如く人ハ交際と結ぶ

自性の者ふして且つ其交際の所行を正ふる小
ハ必此法令と必用ともなり人ハ一日も政治
と法令と欠くべからざる也天然の道理ふして
且又仁義の道といふことを心得る生物たるを
上といふはつるこゝに人ハ已に協力して交と結
ぶ自性もなり智識分別も亦と備るも富此仁
義の人情といふ者も天然備りたる生物ある故
に已き小需用あると知る人の需用あることも
分り事ハ理非善惡と辨ることも出来正理は事
ハ行ふるも邪非と知りる事ハ爲さるるも

物と能く心得兼知する筈なり殊小人ハ此分別
ある故ニ法令の意味も分り交誼の義理人情を
正しくするも如何なる法令も必用なるべきや
も自ら發明するものと得ざるなり然レハ則チ人
たるものハ天然自然協力して交を結ぶること
を得る自ら政治法令の一日も欠く處なき者
なること以て見る處

茲ハ人間の交際といふハ朋友全社杯の事ハ
なく一國の國民を以て組立てるは人民の交際を
云ふなり英ハ「子ーシユン」又ハ「ステー」杯ハ

即チ國民とル又ハ州民とル訳を「子ーシユン」億

北

合体して一政府の下に立つ者と云ふなり假令

ハ佛良西の「子ーシユン」英吉利斯の「子ーシユン」ニ

「子ーシユン」の「ステー」杯ハハ佛の國民英の國

民「子ーシユン」の州民杯といふ如し乃チ人民

の交際とハ此一國一州の人民協力合体せしむる

ふありかく人民の交際を立ゆる目的ハ人々ハ安

穩を益固くし互の幸福と益大かせんとするふあ

り此目的を達せん爲ふ交と結ふに付てハ必を一

致協和して一二の定則條理と遵守し以て之を以

維持と仰がざるを得る此條理定則小由て一國ノ
人民と支配維持とを氏ノ政治と云ふ即ち
英語小之を「ビルゴブメント」と稱す「ブ
ルニメント」と云ふ語ハ亦る直小人民と支配とを
規則條理のこととあり時よりてハ朝廷小立
て其一國の法令を作り以て之を配下小施行と
す諸官員を指して「ゴブルニメント」と稱すること
ル有り然る時ハ之を政府と訳す

第二章 通義と自由の意義を論ず

人々の通義と人をして故障なく各自由小其通義

と達せしむる為の法令小就てハ粗上章小論し及
て第六初學の徒氏の政治を學はんと思ハ、先
預免通義と法令の精義を明悟せんことを要す
通義といハ人間の持前と云ふ意とて何事小亦天
然人間小具りある格式なり已を自ら真實小骨折
るハハ他の公然の手立あるに立り得るもの
ハ乃ち公然小我々所持の品なり之を用ひ之を貯
ふるも正しく已れが隨意自在小即ち他より
間然小難き人の格式ありて人間の當前と云ふ者
あり又我々体の動作小於けるも已まハ自由自

在りて宜き通義より我々行々と欲する処へ行
止すんと思ふ処止す處と更と妨けな
く我幸福安穩ふ必用と思ふ事ハ何事ふまを為し
て害なく只多之を爲し他人の通義を妨けなく
を爲しよと但し他人も亦と我と全様の通義
と持つとゆふにやハ人多るものハ必と忌む答
のこともなり

茲小舉る所の通義ハ皆か之を天賦の通義と名く
此等ハ皆な天然自然生じ得る人間小具りたる者
ありて正しく外う奪ふこともあらず他人小附

與ふること出来ぬ故ふ名つきあり故に
亦多之を附與にたき通義とも称さる此等の
通義とても罪過あるとを其過代小随分取上
るなり假令ハ法令を破り過代ハ其所持の
金小所持の通義を失ふて償金を出し賊と働け
其動作自由の通義を失ふて入牢の刑あり人を殺
せハ己の生命小通義を失ふて死刑の報ある
ごとく此通義小四つの別あり一身上の通義國律
小關する通義民法小關する通義宗旨の通義是
あり一身上の通義とハ一人宛の身上小關する私

權ありて内ふ三つの別あり一は一身を安穩めを
る通義とハ身体生命を保ち名分面目を保つ害を
防禦するの通義なり二は一身を自由めする通義
とい運轉所行言語應對自由自在にして他より叨
りよ禁めるところを得ざるの通義あり三は所持を
保つる通義とハ事物私有の通義ありて得失受用
他より抑制せられぬと云ふ扱亦國律に關する通
義といハ國民國事の參與して人間交際の爲め政体
と撰め國律を定む立法施政の諸官と撰擧るる等
の通義と云ふなり故に撰擧の節入札する杯ハ乃

ち國律に關する人の通義なり民法上に關する通
義と時として區別を立てぬ人もありと國律上の
通義ハ所謂萬機の基本たる國の大法即ち國律一
名基律と以て士民に維持する者あるハ民法を以
て維持する者とハ自ら異なる所あるなり尚其委
數事、國律と民法の名義を論する所に出づ
即ち第三章の通義といふ人々の好む任じや如何なる
宗旨を信仰しても禁め其尊信の仕方其人の
良知ある是より一番神慮を叶ふと思ふは仕
方を用ひて妨めず通義なり又之を良能の通義

とも名く然れども此通義と違せんとも乱れ他
人の通義と破り又ハ國家に平和を害し交際の道
を乱る此通義を用ひ損ふことハ出来ぬなり
人間の通義ハケ様ハ區別も立ち意義も各異なき
とも一口ふ之れといハ皆を盡く天賦の通義を
り古語ふも天の萬人を生くる一毫も一人ハ私を
る所ありと云は是も人なるものハ貴となり賤と
あり老とあり幼とあり誰も皆ハ天然自然全様の
通義を持て生くること我ハ亞米利加
にてハ諸人皆ハ此語を以て人間第一の龜鑑とせ

り既ハ人なるものハ交を結ひ好と通し仁義人情
と辨へたるものやして政治法令の一日も缺くべ
くとも元と天然自性のものなり其國
律民法宗旨の通義其他天然の定理ハ於て人間ハ
得る所の諸通義ハ皆ハ人生天賦の通義と稱せ
自由とハ我ハ通義を達し我ハ當前を果をハ隨意
自在ハ差構なき天の允許あり是ハ亦其
通義の異ハ隨ふ天賦の自由國律上の自由
民法及ハ宗旨の自由探と稱せ故ハ國內萬機の大

基本なる律法を以て保護する通義を行ふに國律
の自由なり民法を以て維持する通義を自由と違
はるハ民法の自由なり宗旨の論を隨意ハ信心
の方を自在にせざるハ即ち宗旨の自由なり
是を以て觀るハ自由といふも必竟人生天賦の一
通義あるとも通義と自由といふ其意味自今一々
に茲ハ一物あり己の之を用る自由を失ふる
人亦とも随分其物ハ尚通義に在ることある
あり長吉ハ一本の筆に是正——長吉が自分
の所持あるを三太郎来りて無理に之を取り上

けり然るときハ長吉ハ自分の筆を隨意に受用
するの自由ハ失ふとれども己の通義ハ依然と
し尚其筆ハ存——三太郎ハ自在に之を使用ハ
せしめ之を用ゆる通義ハなき筈なり且つ又長吉
ハ其筆ハ通義のあるハ民俗交際の法に於て然る
るべきとあり是乃ち長吉ハ民法上の通義あり
天理に於ても長吉の筆ありハ固より長吉ハ隨
意に之を用ゆる通義ある故に亦之と長吉ハ
天賦の通義とも称するなり

第三章 法令の意味を論ず

正心
法令も亦る通義自由と全様ふ天理の道仁義の道
及ひ國律民法探と各異の名目と附て區別と立
天理といふ大威徳大權力神通自在の天地造化の定
むる處ふりて自ら正理ふりて自ら至善至當口は
りて人よ明論ハなりといへり人よりて遵守せ
ざるをて得る凡を義理と辨へ世俗ふ交と結ぶべ
き人間の爲よ正理の全則ふりて天地造化も亦る
自ら成るべき永世不朽の正則なり然ハ天理ハ即ち
人間所行の繩墨ふりて人各天地ふ事へ又と各世
俗ふ交るよりして了然として天地の間ふ現出

以て人間の用とある夫と人ハ各既小天の造物な
り然るハ其本たる天は法りて必も能く其法令よ
順從せざるハ勿論ふりて又各兼て世俗ふ交りて
互ふ相頼り相依ふ縁をあるゆえ答のこ中を蓋し
天の人と天とあるハ億兆皆な同様あるを改め彼我
互ふ幸福を得るやうに我と人と扶け人亦る我を
扶け以て相共ふ關係交通するハ天理定則の然る
にむる所あるは仁義の道といふも造物者が
人の爲よ立てある法令ふりて人の天ふ事へ世ふ
交るふ附て忘る情りてはなりぬ勢めの規則なる

故ふ即ち今日日常人の行状の法則おいて正
天理と一致して分毫も之小異り戻る處なり所謂
十戒太古猶太の大聖人摩西天小則りて記即ち
能く手短小之と述べざる者なり今尚ほ簡略小之
を云いば其中の二大戒ふて足まり乃ち天を敬ま
る小心を尽く人を愛する己を愛する如くな
る處と是より國律とい前ふもいつる如く國
政の由て立つ處萬機の出づ出づる所の大基本た
る國の大法一体のことゆて其政府の下小立て其
政府の保護を仰く億兆萬民の心は甘んじ心り樂

らんと其維持小伏する所の律法をいふなり此法
の法ある所以ハ第五章國律の名義及び其由て成
る所の次第を論んたる處小委しをて民法と
ハ英語小之とムニシハル、ロウといふムニシハル
とい古昔羅馬國人の云ひ染えたる語ゆて市民會
同のこと小附きあることと何ふてもムニシハル
云々といひより来りたり市民會同とい羅馬
の時代不羈自由の市民業を營む者同心協力して
法を設け専ら之小依頼して生と安したるものよ
して其法即ち民法なり所謂民法とい市民會同の

法といふことなり故に其市民の通義を民法の通義といひ其役輩を民法の官負と称せしなり今我々並米利加めて此語乃用方と此意味甚る廣く只た右の意味に用ゆるの事あり一國一州に關することも用ゆる事あり故に今も民法といへる只た市民のみならず一國中の士民の職分を正ふる諸法令の總名なり必竟之を民法と字せしは國の立法官に於て制定する所謂此民法と先よ所謂國の人民相共ふ一致して許可撰定せし國乃基本なる國律との區別を立てんが爲め

所謂仁義の道ハ天理ハ一致符合したる者たる人の行狀の大龜鑑造次顛沛必も人の離るべからざる法令に依る人爲の諸去令も亦も必も此仁義の道に基いて之と一致し毫も戾る處あるを許さば勿論なり此仁義の法令によりて國家萬民を支配維持せんことハ自然たる數次第もの職分の大綱領を知らざる夫の事能はれん其職分の細節目ハ一々明示するとなり然しハ

則ち歸するところ其細節目を行ふに當る能く
顧みず基つて一致とつて一般の概則をありて
其主意ハ人々互に相接するに其行為正直一辺を
らんと要することあり故に天下世俗毎時正理を
叶ふといふ譯あり至りて多きは故に只一人為の
法令ハ日常世俗の間は於て正理至當と考へる
丈を明断制定をねいなり如筋なり殊に天の諸
法令を以て其終國家政治の實地を施さんや
難きことなり蓋し此の形無形より至神至妙
人の内心よのみ感得して外形の以て尋めべき痕

あることなり天を敬する小心を以て人を愛する
小己を愛するより人々を愛するに及んで已む
欲する處を人々施す人々之を報するに已む
り欲する處を以てするに計のこころあり
世人心小此等の職分を情することあり小もせし只
た神通自在の天地造化の能く之を知り玉ふ
べきと豈に天下の人間能く其幽奥を述べて此
法令を以て其心を罰するの権力ある者あるんや
故に人為の法度ハわが人の外形小顕はるべき
行を目的として世俗互の交際を正ふるに在り

五、三
二二

とあり故に世俗國家の法令を以て人を以て是
非とも博愛の大法を遵守せしむるなり。此の
出來たとも此博愛の法所謂ゆる仁義の道なる者
ハ天性義は於て自ら人の上を治むる者ハ
て須臾之を離るることなし。答なり天を敬
人を愛するは仁義の本主意ありて即ち天理の至
善なり。人をして萬物の靈なるものとする
其靈なる身を以て此仁義の大法を守るは世
大なる幸福なり。是を以て仁ハ君子ハ
他人を扶くるを以て己の幸福を招く基本せし

茲に一箇の葉實を持てる子供なり。今其半分を分
らる之を其友と與へしむるを己は獨
り食するに比し其心の快樂幸福亦
如何許なり。然るに人を待つは愛恵仁恤の心を以
てて我の幸福を盡くす。此を實に疑ひなき
處なり。世に之を與ふるを愛するより其天
福遙に大いなり。此の語は真なり。

第四章

政治の体裁ハ君主政治貴族政治民
庶政治共和政治の別あり事

政治の立方ハ種々ありて其尤古き昔の政治ハ酋

長政治といふて大洪水以前より始りて立ち其後も
久しく用ひ来たる者なり往古人民数箇の家族と
なりて相共々羣居交際し未だ一國一州とある程
に至らざる時の政跡なり英語にこれをパトリアル
クの政治といふパトリアルといふ大父といふ意
なり當時家族中の長者なる者を指してパトリアル
猶ほ氏の長者を指し小類を本家なり、分家を支配
するものなり者なりアラブのムハムマド、イタリヤの
ボニファチオ、ギリヤのキリヤコ、エジプトの
ラムセス、メソポタミアのナブパレス、ハ十二
家族の長者なり乃ち各當時の酋長なり其後此

族の輩並弗利加の「エダブト」を退き、後ハ猶太
ノ種の政治を武威政治といふ天の直支配といふ
積より天を以て王とし君し其族類の大聖人摩
西なる者シナイ山に於て天の命を受けたりと稱
して其法令を作りて民人を支配せしより起る夫
より少々宛の変化を加へて紀元頃迄も傳へ来り
り亦去古未だ最も行きたる政体ハ君主貴族民衆共
和の數政体を而して國の大權を握る人の異な
ると其制度の異なるも從ふて其名自ら異なるも
是此權を握る人を稱して君主といふ國王なり

て天下を統御せしむる国王即ち君主なり其權國民
の手ふあはれしむる民即ち自ら國の君主なり然るに共元
と此語の真意ハ國家の政權を只た一人の体ゆゑ
掌握し法令以て其身ふ及ぶことせしむる也權の以て
之を制することある者のみの稱なりとも亦た是
より權し廣く一國中ふる他の諸權より一番
勝るもの者をも爾稱するなり國の大權只た一人
の手ふあはれしむる君主政治といふ王といひ帝といひ
諸侯といふも其ふハ關する皆な地一ノ君主政治
なり政權一身ふはりて萬機皆を其心より出づる

者を君權獨裁の政治といひ法令或ハ他の權力を
以て國王の權を制する者を君權限制の政治といひ
ふ君主政治の別名と相傳へる政治といふ其位を世
より子孫血統相受するより爾稱する國君崩るるハ
其位を總領の男子ふ傳ふるを常とし若し男子ふ
けられ或ハ女子或ハ他の親族血統の者ふ傳ふ國
君死するに撰挙を以て其儲君を定むるものも亦
た間之なり是等ハ任撰の國君と名く蓋し君權獨
裁の政治ハ億兆の上より只た一君のみありて之を
統轄し國ふ法あり只た其心を以て法とし多く武

夫と養ひ其力を以て国家萬民を制御する者ふし
て魯^ロの亞^シ部^ハ兒^ト格^レの如きは最も君權獨裁の政治な
り貴族會議の政治とハ国内の貴族富家特權を持
てるもの相集りて政權を執る者といふ英語よ之
を「アリストカラシ」といふ貴^キ顯^{ケン}の政治の義なり
但し君權政治の国に居る貴族のことをも亦たア
リストカラシと称し貴族とハ其位平民の上より立
て尊^ソ爵^{キョウ}と有する者も英^イの貴族の爵名ハ「デュ
ク^クマルキス^{マルキス}イール^{イール}」^ビ「スカウン^{スカウン}」^バ「バロン^{バロン}」是なり
即ち支那に所謂ゆる公侯伯子男は同じ此爵ハ代

代の血統相傳のものなれども時よりしてハ国王
より斯^シ小^コ之^ノと人^ニ小^コ與^ユふことをありといふ民庶
會同の政治とハ不羈の人^ニ民^ニ知^ルるに一^ニ處^ニ小^コ集會^シ
て自ら法を立て自ら政を施す者とといふ昔^キ希臘^{ヘレニ}
ふハケ^ケ極^{キョク}なる政治をありといふとも未^ミた一^ニ城^ニ下^ニ小^コ
も全^ソくぬ位の小さき處ありてハ行^ハうに難^ガきことか
り一^ニ国^ニ一^ニ州^ニ此^ノ人民^ニを以て皆^ソを盡^スく一^ニ會^ニ小^コ集^スる
めんことハ出来ぬ訳なり我^レハ亞米利加の政体も
人民を以て立ちたる政治なれども右^ニ小^コといふ
者といハ大^ニ小^コ異^ニなり我^レハ政体ハ共和政治といふ

者ふて法令を立て政治を施し執權ハ国民の撰舉
せし民の名代人即ち代議士と称する人を乃手よ
りてなり乍去之を撰舉するをくりが国民の力の
みなりを国律と制し政体と定むるも亦た国民の
権力ふはるなり此の如く国家の権力必竟皆を国
民の手ふ出づる者あるが故に民庶會同の政治ふ
違はざるなり故に當然ふ之と名くは民庶共和
代議官の政治と称すべきなり共和政治の異名と
英語ふコムモンウェルツといふ一統幸福といふ
ことよて国民一統幸福と共ふく自由自在ふ通義

と違し特權と行ひ共ふ太平と蒙むる州民の称な
り我々亞米利加合衆国の連合ふ入りたる各州の
人民即ち是なり

